

小 特 集

朝鮮人のアナキズム運動

朝鮮人によるアナキズム運動の過去と現在……………宋 世 何

韓国の無政府主義運動の状況……………K・リヨンク

韓国のアナキズム運動の現状……………尾 関 弘

ある朝鮮人アナキストの伝記……………李 乙 奎

朝鮮人のアナキズム運動については、これまであまり知られることがなかった。日本の植民地支配下に芽生え、民族解放闘争の一翼を担った彼らの運動の果たした役割は決して小さくはなかった。そしてまた、不可分に結びついた民族主義との複雑な相克を包んだその運動は、われわれに重要な問題を投げかけている。

それはいうまでもなく、民族主義の問題であり、運動の国際的連帯についてである。二者択一ではなく、また表裏一体とみるでもない。それらを思想的にも行動においても共に許容し得る立場をわれわれは確保したい。それがまた、きわめて現代的な課題であることは論ずるまでもないだろう。

ここに収録した小論は、朝鮮人アナキストの埋もれた運動史をひもとく糸口である。「過去と現在」は一九六八年の国際アナキスト連盟カララ大会での報告書であり、短文ながらよくまとめられている。「運動の状況」は一昨年スイスで開催されたシンポジウムに向けて書かれたもので、英文から翻訳した。内容の構成的なまことに欠けるが、四五年以降の運動に触れており興味深い部分が多々ある。「運動の現状」は、昨年韓国を訪問した尾関弘のレポートで、月刊『リペーロ』紙より再録した。民主統一党の評価など一部疑問のところもあるが、もっとも新しい情報として現状を理解するよい資料と思われる。「金宗鎮伝」については後述する。

朝鮮人によるアナキズム運動の過去と現在

朝鮮人によるアナキズム運動は歴史が浅い。これを国内と国外に分けることができるが、国外の場合は更に支那大陸と日本国内に分けられ、国内と併せて鼎立した。朝鮮においてアナキズム運動が遅れたことには二つの原因が挙げられる。李朝五百年は朱子学の輸入によって儒教が勢力を張って宗教の代替を行い、政治や国民の精神生活を封建的に支配した。そこには何ら異質的な思想が芽萌える余地を許さなかった。朱子学以外の学問は総て雑書として扱われ、少しでも異質であることが発見されるとその弾圧は目に余るものであった。

その結果として当然退嬰と無気力がはびこり、封建制の劣弱は近代資本主義や帝国主義の前に他愛もなく屈服したのである。米・英・仏・露の侵略と隣りの清国と日本の軍事的侵略と圧迫は、李朝末期の政治的混乱と社会不安を醸した。日清・日露の戦争で日本が勝利を得るや情勢は一変し、日本は一九〇五年朝鮮全土を軍事占領し、遂に一九一〇年日本は朝鮮を完全に植民地化し、三六年間の統治は始まるのだが、これが第二の理由となるのである。日本が朝鮮を支配すると当時の社会的情勢から言ってナシヨナリズム的抵抗が発生したが、その中でも一番大きな運動は一九一

九年三月一日の三・一運動である。この運動には全国民が参加した。無抵抗運動であったにも拘らず犠牲は大きかった。

このようにして朝鮮におけるアナキズム運動はナシヨナリズムから派生したともいえる。しかし軍国主義的帝国主義の強大な力に対して戦うのにナシヨナリズムだけをもってしては対抗できないことをわれわれは悟ったのである。そこでナシヨナリズムの一部はアナキズムとなりマルキシズムとなった。一九一七年のロシアの革命はボルセビキの勝利によって朝鮮の国内国外のマルキスト達に大きな力を与え、それに勢いを得た彼等の運動は活発を呈した。しかしロシア革命を通じてボルセビキがアナキストに与えた迫害は、申すまでもなく朝鮮のアナキスト達も彼等と終始対立した。時には互に殺傷事件までも起こした。朝鮮のアナキストの勢力は徴々たるものではあったが、一時的にせよ彼等と相当な対抗を示したことも否定はできない。

概して、朝鮮国内におけるアナキズム運動は一九二〇年四月三日ソウルにおける労働共済会事件を始めとし、一九三八年先駆読書会事件まで五〇件を数え、殆んど国内の全地域に亘っている。国内運動の特徴としては、全般的に見て直接行動はあったにはあ

ったが、概して穩健な運動であつたことが言える。それは日本帝國主義の強力な圧迫と緻密な情報政治によつてがんじがらめに縛りつけ、身動きができなかつたせいだと想像される。

第二に、支那大陸における運動は一九二一年六月九日上海競技大会において、無政府主義宣伝ピラを撒布した事件から一九四五年中・韓無政府主義者大会が上海で開かれるまで五二件を数える。この大会には中国側から李石曾・巴金・畢修勺同志が参加した。中国における朝鮮人のアナキズム運動は若干その歴史が国内と日本国内とに較べて永いことがいえる。これは第二次世界大戦が終るまで続いたことを意味する。もう一つの特徴は直接行動が主流をなし、破壊あり、暗殺ありでその性格は多彩であつた。それに日本と異つた政治情勢から同志達は或る程度の自由が保たれたことである。

第三に日本国内であるが、一九二〇年六月一日の朝鮮人爆弾事件から一九三〇年学生連盟事件迄に三六件を数え、一九三八年八月朝鮮自由労働組合が国内と相携えてあらゆるグループや団体が日本の帝國主義者達によつて解散させられたのを最後に、国内と日本国内における運動は終止した。地域別に見れば学生層の多い東京と労働者の多い大阪に限られていた。朝鮮の国内における運動の性格と日本国における朝鮮のアナキスト達の運動は似ている点もあるが、日本国内における活動の方がやや活気があつたように思われるのである。日本の同志達との提携と理論的支援によるものかも知れない。

以上は国内・国外を通じてのアナキスト運動の極く簡単なあらましであるが、いま私はこれについて詳細に究明することはでき

ない。何故なら資料が殆んど逸散してしまつたからである。幸い一九六六年九月六日南朝鮮のソウルにおいて朝鮮無政府主義運動史編纂委員会ができ、同志達によつて鋭意準備が進められているようであるが、難産模索で日の目を末だに見ず、世界の同志達にお知らせすることができないのは甚だ残念である。

終りに、一九四五年八月十五日第二次世界大戦の終了と共に日本の敗戦以後における朝鮮のアナキスト達の動きについて若干触れて見たいと思う。国内・国外を問わず日本の敗戦は干天の慈雨であつた。誰もが鬼の首でも屠つたように喜び、誰もが民族の解放と民族の独立を叫んだ。この激流に吞まれてアナキストも例外ではなかつた。在中國の同志達はナショナリスト達と一諾に殆んど帰国し、日本における同志達も多数引揚げた。何をどうしようという目算もなく、ただ民族主義者達と手を組んだり、政治活動のための政党を結成したりしたが、民族主義者としてそう御自出度くはない。李承晩の出現による保守反動化は同志達の活動を無力化し、汚職と不正は日常茶飯事で、アメリカと李承晩政府の買弁資本家の跋扈となり、民衆は塗炭の苦しみを受けたがアナキスト達はなす術べを知らなかつた。純正であるべきアナキストが政治権力に足を突込み、資本家に隷属されて走狗の役割を果しつつ、何の革命を夢見、何をどんなふう社会を改革し、どのように人間生活を導こうというのか。彼等は既に過誤を犯したのだ。日本に残つた古い同志達も軌を一にする。いま日本には六〇万の朝鮮人が残っている。それらは南と北に別れていてそれぞれの組織を持つている。北の政権は元アナキストでも容認しないので、南の政権の御用機関である比較的禦し易い組織に彼らは首を突込みお茶

を濁している現状である。一九四六年五月、日本アナキスト連盟が結成された時、大会に出席した人数はたった二名であったのを見て彼等の動向が知れようというものだ。

ここでちょっとつけ加えて置きたいことは、一九四七年自由社会建設者連盟が国内で結成されたが、三〇〇名近い参加者があつたといわれている。期待した解放も独立も失望に終り、国土は米・ソ両国によって真つ二つに割られて占領されカイライ両政権は信ずるに足らず、その鬱憤を何かに吐け口を求めて参集したのであろうと推察する。しかしその後何の成果もなく自然消滅してしまつた。日本においても相ついで自由社会建設者連盟結成大会を持つたが、参加者は約三〇名であつた。だがこれも国内と大同小異で、構成分子が南政権の御用団体に首を突込んでゐる連中が主だったのでどうにもならない。このように大戦後の朝鮮人によるアナキズム運動は支離滅裂である。いまは一つのグループも存在しない。われわれは腹背に敵を置き、一つはマルクス・レーニン主義であり、も一つはアメリカの支配下にある後進的資本主義である。どちらも膨大な軍費を持ち南と北に別れて一触即発の体制を敷いている。どちらも一方にナショナリズムを標榜し、資本主義を撃滅する人だといひ、共産主義を抹殺するんだといふ。この両勢力に狭み撃ちされているわれわれの純正な少数者には、自信喪失と無気力が重なり一種の自暴自棄的傾向もなくはないのが本当だろう。私の個人的見解によれば現在の朝鮮のアナキズム運動とアナキストのその思想と行動を斯く説明するものである。彼らにはアナキストであることによって現実の御利益を得られない。今般、国際アナキスト連盟大会の開催に際し、世界の同志諸君

に敬意と祝福を送る。ただ残念なことは、この国際大会に際し何ら提議ができないことである。何故なら朝鮮には国内外を問わず、運動形体もなく、本文を書く私もあくまで私個人であるからである。

私が以上に書いたことを一言で表現するならば、朝鮮のアナキズム運動はナショナリズムから派生し、ナショナリズムによって衰退したと極言する。

国家があるところ、帝国主義が存在するところに支配と権力があり、そこには必ずナショナリズムが発生する。支配者はナショナリズムを支配権力の道具とするのである。国家が崩壊すれば帝国主義は存在し得ない。従つて戦争もあり得ない。そこには、言語が残り、習慣が残り、平和を愛する人間が残る。われわれは如何にして国家を崩壊させるか、今日のまた明日への課題であらぬであらう。

一九六八・八・二〇

韓国の無政府主義運動の状況

K・リヨング
山本 安屯・訳

日本の同志が、数日前、八月末（一九七二年）にCIRA（スイスにある国際アナキズム研究センター）においてアナキズム・シンポジウムがあること、そしてまた、ヨーロッパのあらゆる同志に韓国のアナキズム運動の状況を知らせるものとも良い機会であると考えていることを知らせてきました。その集會に参加できませんが、われわれの運動の眞の歴史と、今日の状況を伝えることができるなら喜びの限りです。

朝鮮のアナキズム運動は、一九二〇年代の初期に発した。われわれの国は周知のように、一九一〇年八月に日本の手で暴力的に侵略され、植民地化された。日本帝国主義に対して、あらゆる可能な限りの抵抗がくり返され、くり展げられたのである。

第一次世界大戦が終った一九一九年、日本の支配に対して朝鮮独立を掲げた三・一運動といわれる大示威運動が、国中にひろがった。しかし、この革命的運動は、日本軍の野蛮な弾圧によって多くの人民の血が流される結果をもたらした。これを想像するなら、ソビエト軍が、国家独立のため英雄的行動を起こしたハンガリー人を迫害した状況を思い浮かべればと思う。

革命的反乱が失敗した後、日本の占領政策による搾取は、日増しに増大していった。日本の占領警察はわが国に対し、ますますその搾取・強奪の傾向を強くしていった。その結果として、人口の八〇パーセントを占める多くの農民は、土地を奪われ、借地農民となった。また農民たちの多くは、絶望し、土地を離れた。仕事を探して日本や満洲の大きな都市に移っていったのであった。その頃は、独立を目指した自由主義的な運動が發展していた。

そしてさらに、ラジカルな社会主義運動が朝鮮に入ってきた。そうしたなかで、朝鮮のアナキズム運動は一九二〇年代当初、すでに胎動を始めていた。この動きは大きな都市、例えばソウル、ピョンヤン、タイガ、ハンブン、そして小さな農村、例えばタンチュム、イチュン、アネイテなどで、アナキスト・グループを数多く組織していった。

一方、中国への亡命朝鮮人アナキストや、満州、日本の朝鮮人アナキストたちはそれぞれの国で、朝鮮国内の動きと深く結びつきながら、アナキスト組織を形成していった。グループのなかのいくつかを紹介すると、次のようである。（創設の場所時代、グループの代表者名を記す）

労働相互扶助協会（一九二〇年 ソウル スーン・フンコウ）

無政府主義運動協会（一九二一年 ソウル ユル・パーク）

友愛的無政府主義者連合（一九二三年 東京 ユル・パーク）

黒旗連盟（一九二五年 ソウル チョン・スンセオ）

眞の信頼連盟（一九二五年 タイガ ジョー・モシム）

クワン・セオの友愛無政府主義者協会（一九二七年 ピョンヤン カップ・ピョンチョイ）

亡命朝鮮無政府主義者連盟（一九二四年 中国 ジョー・ムヨンク）

東方無政府主義者連盟（一九二八年 南京 ウ・アムユング、ユル・キューリー）

ドン・フング労働者協会（一九三〇年 東京 イル・トング、ヤング）

われわれは、農民階級に自由主義思想の情宣を行った。農民の

なかや、都市での労働者のなかで、抵抗への意志を培っている階級に対してである。

われわれは、共同労働の仕事を組織しながら、できる限り大衆運動を形成していった。そして一方、個人的テロリストが日本の帝国主義的支配者どもに、危害を加えていった。例えば、東京でユル・パーク氏が計画した天皇暗殺があり、他の例では、上海にいた日本の関係者の暗殺を計画したユング・キ・パーク氏がいる。しかし、日本の侵略は一九三〇年代から、少しずつアジア大陸へと進行していき、ついに第二次大戦が始まった。占領警察はわれわれに対して最後の行動を開始し、やがて強まる弾圧下に運動は圧殺された。

言いたいことは、第二次大戦の終結前後でのわれわれの活動の本当の姿である。この終結により、世界各地に亡命していた同志は、一人また一人と帰ってきた。そしてわれわれは、一九四五年八月ソウルで自由社会建設者のための連盟を組織することができ、翌年四月には、朝鮮アナキストによる大きな国内会議を開催した。この会議は、少数同志による政治的党建設を承認したのである。アナキストの見地から言えば、これは奇妙な決定であった。われわれは、日本の占領から解放されたわが国で、たいした困難もなく理想社会建設ができると思っていたのである。また、新しい社会状況のなかで、アナキズム思想を一般化する義務があるとも考えていた。

会議の後、党建設を承認された少数アナキストは、労農統一党を組織した。党建設に反対した同志たちは、大衆への活発な情宣

を行った。しかしこうした動きは他の団体との連帯をもっていなかったし、運動の発展を妨げる分裂を生み、失敗をもたらす悪い状況であった。

われわれは、日本の圧制者から解放されたし、国土は分裂していなかった。つまり、誰も決定的に国を支配する力をもっていなかったのであったが、やがて狂った日本帝国主義の代わりに、二つの政治勢力が外部からきて、闘いを始めた。すなわち米軍とソビエト軍は、日本軍が敗戦によって敗退したところに侵略してきたのである。われわれは一九四五年十二月、モスクワで四巨頭が決定した妥協案に反対し、抵抗した。われわれは困難ながらも、この汚れた結論を否定した。しかしこの二つの勢力は、あたかも国が分裂しているかのように、その追隨者を得ることに成功したのであった。

とうとう南北分裂という局面をむかえた。できる限り二つの勢力が国に居すわるのに反対したけれど、ほとんど何も変わらなかった。二つの勢力は互いを闘わせるために武器を持ち込み、のちに北の共産勢力はとうとうソビエト軍の武器でもって南を侵略してきた。北朝鮮の共産党は、米軍が南に戻ってきた時に軍事力でもって国家統一を企てた。しかし、北朝鮮がこういう形で南と関係するのは、人類の歴史上悲劇の中の悲劇である。だが、両政治勢力は、朝鮮戦争を通じて主に外国からの援助に頼る軍事独裁制を強制してきた。そうしたなかで、南朝鮮では幸運にも一九六〇年四月十九日、学生の反乱によって李承晩政権が打倒されたので

あった。以後民主党が政権を掌握している。

現在、政府は軍事革命を通じ、北からの再侵略を防ぐために治安強化を行っている。そして金日成を頭とする共産党が、二五年間北朝鮮で独裁制を維持しているのは明白である。

結論として、現在のアナキズム運動の状況を述べよう。率直に言って、人民は南北両勢力間で競争が継続することに疲れている。民主党が権力を握っている間、労農独立協会の同志は全ての改良主義政党に対し、共闘と強い協力を申し出た。しかし無駄であった。なお、現在のアナキズム運動は压制下にある。

ワシントンと北京、ワシントンとモスクワ、そして世界情勢の変化に応じて中国に接近した日本などの現在の協調路線が影響して、南北両政治勢力は相互に平和的な言葉による論争をしようとしている。

このような状況のなかにあるわれわれは、次の計画をもっている。

- 一、プラグマティックな教育。それは国を組織し、政府を一つにする方法であろう。
- 二、北との国境に駐留する百万兵士がいる。この事実が必要か、そうでないかは人民が決定する重要な契機になると思う。
- 三、それ故、朝鮮統一。それは長年人民が望んでいることだが、南北両朝鮮の側で、政治勢力の消失と軍隊の撤退を真剣に実行に移すことにある。

それには、自由意志による参加と、最終的にわれわれの仕事の完全な成功を達成するための大衆の建設的指導が必要である。

軍事革命失敗以降、自由社会建設者のための連盟（百名余）やアナキスト協会（五十名余）は、十年ほど活動してきた。やがてこの二つの組織は結合し、アナキズム運動を一本化することが要請されるだろう。

われわれの活動なり行動は、最初、アナキズムの情宣から始めることにある。党とともに機能していた労農独立協会は失敗し、その再建は不可能と言われる。

影響力のある老アナキストは、一人一人われわれから離れていく。活動的な青年アナキストは、それに参加するために出てきていない。なぜなら、現在われわれは常時弾圧下に置かれている。あなた方と実のある関係をもちたいし、わが国の現状に興味をもち理解してもらえたらと思う。

一九七二年十月二一日

韓国のアナキズム運動の現状

出版物を中心にして

尾 関 弘

いま韓国で出版されているアナキズム関係の主な出版物を列記

すると、

- 1『アナキズム 思想篇—自主人の思想と運動の歴史』 G・ウッドコック著 河岐洛訳 螢雪出版
- 2『アナキズム 運動篇』 G・ウッドコック著 崖申龍訳 螢雪出版
- 3『現代科学とアナキズム・アナキズムの道德』 クロボトキン著 李乙奎訳 晦観李乙奎先生遺稿刊行会
- 4『是也金宗鎮先生伝』 李乙奎著 韓興印刷所
- 5『通信』 全国農村運動者協議会機関紙
- 6『民主統一党党憲及政綱政策』
- 7『自由人自我党一九七三年七月一七日〜九月十七日』仮訳

朴ファッショ政権下において、韓国のアナキスト運動は、当然のことながら多くの制限と困難に直面している。現状では、言論集会、出版の自由すら全く認められていないといつてよい。

そのような状況のなかで、ソウル在住のアナキストを中心に一九七二年二月に「自主人連盟」が結成された。そしてこの自主人連盟を中心に、少しずつ出版活動も行われるようになった。先にあげた『アナキズム』の思想篇と運動篇とは、ジョージ・ウッドコックの著作の二分冊である。これは大学の教科書を取り扱う一般の商業出版社から発売され、最初の思想篇は五〇〇部印刷された。出版に際しては、サブタイトルとして「自主人の思想と運動の歴史」をつけ加えるなどの配慮、苦肉の策が勞せられている。しかし二冊目の運動篇となると、折からの戒厳令下の思想統制もあって、出版社がその発行をしづり、結局印刷したものは全て自

分たちで買い取るということを条件に、やっと陽の目をみたのである。

それ以後の韓国におけるアナキズム関係の印刷物は、全て自費出版であり、地下出版である。

『現代科学とアナキズム・アナキズムの道德』は、クロボトキンの『近代科学とアナキズム』の翻訳に、『倫理学』から「アナキズムと道德」が抜粋され、付け加えられている。訳者である李乙奎氏は、「朝鮮のクロボトキン」と呼ばれている人で、中国での亡命時代にはアナキズム運動、独立運動の先頭にたつて闘った。この経歴もあって、彼の思想、人格とともに、韓国においてアナキストの間だけでなく大きな国民的影響力をもったのである。

また『金宗鎮伝』は、「知られざる朝鮮人アナキスト運動史」のなかでも、ハイライトとも言うべき北満州におけるアナキスト・パルチザン運動の指導者であった金宗鎮將軍の伝記を、現地でも共に闘った著者の李乙奎が書きつづつたものである。金宗鎮をマフノに、李乙奎をヴォーリンに、北満州をウクライナの地にたとえると、両者が余りにも似通っていることに気づく。ただ違うのは、マフノは赤軍に追われてパリに亡命し、病院で死んだのに対して、金宗鎮は一九三一年七月十一日に共産黨員に暗殺されたことである。この本は、今回私が韓国から持ち帰った数冊の本の中でも、もっとも注目すべき本であり、在日朝鮮人はもちろんのこと、日本の若いアナキスト諸君にも読んで欲しい本である。従来の、共産主義あるいは民族主義中心の独立運動史に対して、アナキストこそ多くの犠牲をだして、真に独立運動の先頭にたつて闘った事実を証明してくれる貴重な本である。

現在の韓国におけるアナキズム運動は、思想集団として「自主人連盟」を一致団結して組織しているほか、実際活動上では大きく二つの潮流に分かれ運動している。一つは民主統一統を擁して政党運動をやるグループ、もう一つは農村運動をしているグループである。

民主統一党は、かつて東京で東興労働同盟（在日朝鮮人自由労働者の組合）の活動家であり、『黒色新聞』（朝鮮語で発行された朝鮮人アナキストの機関紙）の編集者であった梁一東氏を党首に、また朝鮮独立運動、アナキスト運動の父ともいふべき鄭華岩氏を最高顧問に、河岐洛氏を政策審議委員会委員長に擁した、いわばアナキストの指導する韓国唯一の野党である。『民主統一党党憲及政綱政策』『自由人自我』は、その民主統一党の政治政策、記者会見談等を集めた印刷物であり、通常のルートでは手に入らない貴重なものである。これを読んでいただければ、朝鮮のアナキズム運動の特異性として、一九四五年の解放後一部のアナキストが自ら政治に手を染めるといふ自己矛盾を何故おかしきたかが理解されるだろう。その事情は、スペイン革命当時のスペイン・アナキストのそれに少しく似ていなくもない。

もう一つの農村運動の潮流では、李乙奎の弟の李丁奎氏が所長となつて「国民文化研究所」という機関を設立した。それは、一九六一年の朴正熙の軍事クーデター以後、教師、学生を中心とするいわば韓国の知識階級をナロードニキの運動に指導していく、そのセンターとなつている。李乙奎、李丁奎のアナキズムがクロポトキン主義であることを考えてみれば、この種のナロードニキ

運動の思想的根拠や必然性も十分に理解できる。李丁奎は、かつて儒教の大学として有名な成均館大学の総長を勤めたことのある人物で、韓国の教育界では大きな影響力をもつ人物である。この運動の中から、少しづつではあるが若い人の間に、李丁奎の思想と人格を慕うという形で、若いアナキストも生まれつつある。

『通信』は、この運動の主力部隊である「農民活動者協議会」の機関紙である。この協議会の会長である朴升漢氏も、元高校の地理教師をしていたが、辞めて農村に入っていった若いアナキストの一人である。

余談になるが、私のいま関わっている彌栄之郷共同体では、韓国のこの運動と、若いアナキストの留学生（？）を交換することを計画している。話をすればする程、農村のコミューン化、自治、自衛社会の建設等々、状況認識から運動の目的、やり方まで一致するところが多い。具体的な戦略論、方法論、技術論で多くのことを学べることを期待している。またそんな交流プログラムを実現したい。

また韓国のアナキスト同志たちは、梁熙錫氏を中心に「自由文庫」を設立した。自由文庫の目的は、散逸している朝鮮のアナキズム文献を集めること、朝鮮アナキズム運動史を編さんすることである。私たちは、韓国のような地道で重要な動きに全面的に協力をし、「自由文庫」がC I R A・K O R E Aとしても機能するよう、虎のオリの中のアナキズムを、外からの刺激によって、開放された国際的な運動の中に招き入れることが、隣国のアナキストとして必要だと考える。